

# こまざわ 経済 通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1



## 学部長挨拶

## オンライン授業と大学の役割

森田 佳宏(教授、会計監査論担当、2001年着任)

コロナ禍という言葉も、随分と耳に慣れてきたように思います。オンライン授業への対応が本格的に求められたのは昨年の4月でしたが、それまで、講義では授業のはじめにワードで作成したプリントを配布し、板書をしながらその内容を説明していくという旧式の授業方法をとっていた私にとっては、まるで新任教員1年目のような慌ただしい日々の始まりとなりました。まずはオンライン授業で使用する授業支援システムの理解から始めなければなりませんでした。何より時間を要したのは、毎回の講義の動画づくりでした。それまで使ってきたワードのプリントの内容を見直しながらパワーポイントのスライドを作り、これに音声の解説を録音して動画を作るのですが、対面授業ではその場で容易に修正・補足できるちょっとした言い間違いや説明のわかりにくさなどが、録音となるとそのまま残しておくことも気になり、そのようなスライドは録音し直すということがしばしばで、あまりの非効率さに我ながらうんざりし、とうとう原稿を作ることにしたのですが、これがまた時間がかかって、1回分の動画を作るのに数日を要したこともありました。授業時間中は作成した動画を流すのですが、たまに学生から質問が来るので、授業時間中もパソコンに張り付きながら他の仕事をし、授業時間が終わると小テストの正解を公開して次の授業の準備を始めるということの繰り返しでした。

当初は混乱に近い状況の中でスタートしたオンライン授業も、その開始から一年半ほどが経ち、教員も学生もオンライン授業の形態にはかなり習熟してきた印象を持ちます。学内では、教員向けのオンライン授業の研修会がたびたび開催され、教員間で知識や体験を共有することによって、効果的なオンライン授業の方法が確立されつつあります。私自身も、オンライン授業のメリットは、適切に実施すれば、授業の内容を無駄なく集中して効率的かつ的確に学生に伝えられる点にあると実感しています。コロナ禍で人の往来が限られる中、社会の多くの分野でデジタル化への転換が求められており、大学も否応なしにその波にのみ込まれていますが、今後はさらに、コロナ後を見据えたオンライン授業の恒常的活用についての検討が始まります。ここでは、どのような授業を対面で行い、どのような授業をどのような形のオンラインで行うことが適切であるのかを、学習効果など様々な観点から考えていくこととなりますが、ここで検討すべき重要な問題は、通学とは何か、さらには、大学とは学生に何を提供する場であるのかということです。対面で授業を行っていた頃には当たり前のこととして特に意識はしていませんでしたが、学生が通学し、人と会い、コミュニケーションを交わし、人間関係を構築していくことは、社会で生きていくための人間形成の観点から非常に重要です。今後、一定割合の授業が恒常的にオンラインで行われ、以前のような通学が不要になるとすれば、人間形成の場としての大学の役割をどのように果たしていくのか、学修と人間形成の両立をどのように図っていくのか、コロナ後に向けた次の課題であると考えています。

## 「第6回学生シンポジウム」にご参加を!!

2021年11月20日(土)に学生シンポジウムが開催されます。現役生の日頃の研究成果をご覧ください。※現時点でハイブリッド形式での開催を想定しておりますが、コロナの状況次第では完全オンライン開催になります。11月上旬には経済学部ホームページ等で詳細をご連絡いたします。



## コロナ禍における授業形態

経済学部 増田 幹人

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている中、駒澤大学では従来とは異なる形態で授業が実施されています。現在、駒澤大学の授業は、基本的には、受講生が 200 人以上の場合はオンラインで実施され、200 人未満の場合は対面で実施されています。ただし、受講生が 200 人未満であれば例外なく対面授業が実施されているわけではなく、条件付きとなっています。

例えば、対面授業実施科目のうち、教場定員の 60%を超える履修者のいる科目については、教場内での三密を防ぐため、履修者が対面もしくはオンラインでの受講のいずれかを選択できるようになっています。また、教員の裁量により、半期 15 回の授業回数のうち 7 回までオンライン授業での実施が認められています。さらに、教員本人もしくはその同居家族に基礎疾患がある場合はオンライン授業を実施でき、学生本人もしくはその同居家族が基礎疾患を有する場合は対面授業に代わる対応（オンライン授業による対応等）を適用できることになっています。

オンライン授業は、①資料配信、②オンデマンド配信（事前に授業を録画していつでも見られるようにする）、③ライブ配信（リアルタイム）の三つに分かれますが、学生の評価は様々なようです。ライブ配信は臨場感を味わえるという意味では好評ですが、話を何度も聞き返してじっくり勉強したい学生にとってはオンデマンド配信の方が良いようです。また、ライブ配信の授業と対面授業が連続して実施される場合、ライブ配信授業の受講場所を確保するのに苦慮する学生も見られます。

定期試験は、試験期間内に実施する場合は基本対面で実施されていますが、授業内で試験を実施する場合は、オンライン試験やレポート試験が実施されているケースもあります。オンライン試験の場合、学生は自宅のパソコン等から受験します。

ゼミ活動については、通常の授業は人数が少ないため基本対面形式で実施されていますが、合宿は条件付きとなっています。2021 年 7 月 11 日までは、一都三県・日帰りを条件としてゼミ合宿を行うことが可能という状況でしたが、7 月 12 日以降は、東京都において緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置が発出されていないことを条件に、一都三県に限定せず宿泊を伴う合宿が可能という状況です。

以上は 2021 年 8 月時点での状況ですが、今後状況が変われば授業形態が変更されることもあり得ます。それだけ、状況が不安定であり、大学は前代未聞の局面に立たされていると言えます。コロナ禍により、授業形態は大きく様変わりしました。ただし、負の側面ばかりではありません。オンライン授業を実施したことにより、オンライン授業の良さも浮き彫りになりました。例えば、対面授業であれば授業中に発言しにくい学生も、ライブ配信の授業では発言しやすいようです。また、授業内容によってはオンラインの方が適している授業もあると考えられます。これからは、対面授業とオンライン授業の両方を導入していく時代になっていくかもしれません。いずれにしても、コロナ禍が早く終息することを祈るばかりです。



# 在外研究こぼれ話

## スウェーデンで経験するコロナ禍の研究生生活

姉齒 暁(教授、消費経済論、2007年着任)

昨年9月よりスウェーデンのルンド大学社会学部で農家女性のジェンダーについて研究を続けています。

スウェーデンは日本からすればとてつもなく平等度が高い社会ですが、まだまだ課題が残っています。平日の朝、保育園に子供を預けるために猛スピードで自転車をこいでいるのはほとんど母親たちです。同僚達からも北欧の福祉行政、ジェンダー平等政策の黄金期にあった70年代のイメージが一人歩きし、この国が抱える潜在的な課題に目が向かなくなっていることを危惧する声が聞かれます。

スウェーデンにおける性差別の現状が最もよく現れるものが「所有」です。中でも、土地、資本、資源、時間の所有の偏在は農家の女性たちにより強く現れます。スウェーデンの農協LRFスコーネの全面的な協力を得て聞き取り調査が進行中ですが、女性たちとの会話からは所有の偏在がもたらす日本と類似した深刻な課題が見えてきます。ただし、日本と大きく異なるのは70年代の「家族から個人へ」の政策転換がこうした農家女性たちをワンオペ育児、介護から解放したことです。特に介護からの解放は農家女性たちの人生を大きく変えることになりました。20年来の友人で学部長のオーサ・ルンドビスト教授はこの家族政策の専門家です。コロナ対策の責務を負い多忙を極める彼女ですが、散歩をしながら、大学の植物園でコーヒーとケーキを楽しみながら交わす話から多くのヒントをもらっています。

スウェーデンにはFika(お茶とお菓子で顔を突き合わせながら会話を楽しむ)という習慣がありますが、混み合ったレストランに入るのがためられる毎日、私たちの間では自然と「散歩をしながら話をしない？」が合言葉になりました。スウェーデンの人口は1,023万人、中でもルンドは小さな大学街です。物理的距離を取る



ルンドの大聖堂の前で休憩する保育園の子どもたち。付き添いの保育士は4名。ほとんどが女性です。一方で、この国には待機児童問題はありませぬ。

のは簡単なので、真冬でも同僚たちとひたすら歩き続けたものです。

8月現在、スウェーデンのワクチン接種完了比率は6割を超えました。ここまで決して順調だったとは言えない状況にあって、コロナ対策の責任者であるテグネル博士が連日定時にグラフを使って丁寧に状況を説明し、質疑応答を行うことが安心感を与えてくれました。それ以上に国民の不安を和らげてくれていたのは、医療体制が守られていたからです。当初こそ介護施設の爆発的感染で実質的な医療崩壊が生じたものの、その崖っぷちの状況から医療現場を立て直すことができたのは、感染者を受け入れる病院が公的施設

〈次のページへ続く〉



ルンド大学社会学部棟と早春のクロッカスの群生。研究室は、かつて病院だったこの建物の最上階にあります。この時期は足元の花が次々開き、毎日カメラを抱えて通いました。



町中を巻き込む学部対抗の行事。「大学病院のヘリポートまでの階段を駆け上がる」「広場でバカなダンスをする」などのリストをこなして点数を競い合う。このグループは「地学部」と「生理学部」の混合チーム

であり、資源や患者の割り当てを一元管理できたことが大きいと言われています。防護服などのギアを行き渡らせ、ECMO搭載機で重篤な患者をカロリンスカ大学病院に運び、医療スタッフの配置を行うなどの対応が、安心してワクチンを待つという雰囲気を高めました。一方、史上初の内閣不信任可決に直面したルーベン首相は辞職を宣言するなど大きな変化が起きています。帰国してから、そのことも皆さんにご報告できればと思っています。

## 経済学部同窓会長賞の受賞者

2021年3月23日に学位記の授与がおこなわれました。経済学科408名、商学科259名、現代応用経済学科188名、合計855名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品(万年筆)を授与しました。受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

経済学科：	東 駿太郎	安岡 彩夏	田崎 智
商学科：	清水 聡	守屋 亜美	鈴木 里穂
現代応用経済学科：	安藤 彩華	白井 晴紀	米川 広人

※ 本年も昨年と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、賞状と記念品は、受賞者に郵送させていただきます。同窓会のみなさまの日頃のご協力にも感謝いたします。

## 2021年度第1回経済学部同窓会役員会の開催

同窓会は、(1) 卒業生の親睦、(2) 経済学部への教育支援を目的に 27 年間活動してきました。(2) に関しては長年の試行錯誤の末、現在は以下の事業が実施されています。①「こまざわ経済通信」発行(9月・3月)、②「ソフトボール大会」の後援、③「学生シンポジウム」の後援と参加、④「ホームカミングデー」への参加、⑤卒業式で成績優秀者の表彰と会員募集。

しかし昨年はコロナ禍で経済学部が②③④を中止した結果、それに連動する同窓会活動も中止になりました。対面での役員会も困難になり、同窓会活動は停滞を余儀なくされました。ただ一方、大学や学部ではコロナ禍に対応する新しい教育方法や管理運営を模索する動きが始まっています。同窓会も従来の行事や活動を見直し、新しい活動の在り方を検討しています。2021年7月20日に開催されたオンライン役員会はその一例であり、同窓会改革の画期的な一歩だといえます。会員のみなさまにおかれましては、同窓会の活動について今後も積極的にご意見をいただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

